

# メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 会報メール 第 17 号 [2010 年 2 月号]

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第 17 号をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## <目次> [ページ]

[ロゴマークを募集します!](#) (岡谷賢孝) [2]

[メソト・マンスリー](#) 今月のメソトの様子をお知らせします。 (田辺 文)

- ・ [新しい外来棟建設が決定](#) [2]
- ・ [きょうのゆめ](#) [3]
- ・ [シビアな表現](#) [3]

[国内から](#) (田中 増美)

- ・ [一般公開勉強会を開催しました](#) [4]
- ・ [JAM の裏話](#) [5]

[国際保健医療協力のなかで](#) (5)

- ・ [開発か協力か](#) (小林 潤) [7]

[編集後記](#) [8]

[次号の予定](#) [8]

ロゴマークを募集します!!

【東京＝岡谷賢孝】

メータオ・クリニック支援の会は、JAM をより広く、より多くの方々に知って頂くため、

**ロゴマークを募集**します。

**募集期間は、3 月 1 日（月）から 5 月 15 日（土）**です。

結果は、平成 22 年度総会にて、入賞した 3 作品と併せて発表いたします。  
また、応募されたすべての作品はホームページ、会報等に掲載いたします。  
皆様のご応募をお待ちしております。

詳細は HP をご覧ください。 <http://www.japanmaetao.org/>

◆入賞作品 **・Dr. Cynthia Maung 賞 1 点**  
**(JAM のロゴとして採用＋賞状＋副賞)**

・Thar Win 賞 1 点 (賞状＋副賞)

・JAM 特別賞 1 点 (賞状＋副賞)

【応募先およびお問い合わせ先】

〒162-0823 新宿区神楽河岸 1-1 東京ボランティア市民活動センター メール BOX No.52

E-mail : [support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org) (ロゴ募集企画 担当：岡谷)

メソト・マンスリー

今月のメータオ・クリニックの様子をお届けします。

【メソト（タイ北西部）＝田辺文】



## 新しい外来棟建設が決定

2008 年、メータオ・クリニックの院長であるシンシア・マウン医師は、スペインのカタルーニャ州政府よりカタルーニャ国際賞を受賞しました。

この受賞を受けて NGO ビルマ・キャンペーン・スペインは、政府および一般寄付者より 350 万円（約 1000 万円）の寄付金を得て、クリニックへ新外来棟建設の提案をしまし



た。

メータオ・クリニックの敷地はほとんどが借地であり、建築は制限されています。しかし、道路に面して一部、タイの仏教徒団体を仲介してクリニックが購入した土地があります。その場所に産科外来、小児予防接種外来を含む新しい外来棟を建築することが決定しました。

今後、クリニックが新しい土地に移る必要性が出て、この建物は母子保健外来として残したいと関係者は語ります。

時間をかけて少しずつ、メータオ・クリニックはこの場所にも世界にも、根付いていっ

ています。



(写真：新外来棟 予定地)

## きょうのゆめ

今月は、 ミヨウ・スエちゃん 16 歳 です。

小さいときから病気がちでしたが、おなかが張っておへそが飛び出てきたので近くの病院に行きました。肝臓が悪いといわれ州都の大きな病院を紹介されましたが、お金の余裕がなかったのでタイに来ることになりました。



私の病気はメータオ・クリニックでも治せないということで「チェンマイ」という場所に行くことになりました。

バスで 6 時間。見たこともない大きな町。最初はとても怖かったです。検査をたくさんして一度メソトに戻り、今度は手術のために戻ることになりました。お父さんがいつも一緒にいてくれます。将来はお父さんの仕事の縫製と一緒にしたいです。

小さく細い身体だけれど、一緒に買い物をした売店で、ブカブカでも大人の服を選びました。もう立派なレディーです。手術がうまくいって、早くメソトに帰ってきてほしいです。

## シビアな表現

～ブログ Borderless Border's より～

失恋話を聞きながらふと

「失恋」ってビルマ語でなんていうのかと思いました。

英語風に「心が壊れる」かな？

しかし聞いてみてびっくり。

なんと「肝臓が割れる」と言うのです。

生々しく、かつ痛みの伝わるすごい表現です。

そして**結婚**。

ビルマ語では**家の牢屋**といいます。

気持ちはわからなくないけど

夢がないなあ。

「結婚は人生の墓場」と言う人がいるけれど  
「実は、今度、彼氏と家の牢屋することにしたんだよね～」  
と言っているところを想像すると  
すごくおもしろいです。

少なくとも私の知るビルマ人カップルたちは  
家の牢屋をしていてもまだ夢見ている  
とても幸せそうです。  
あしからず。

★★ 現地での活動を日々、更新中です！ ★★ ぜひ、ご覧ください。

**Borderless Border's (田辺文のブログ)** <http://www.japanmaetao.org/blog/borderless/>

メータオ・クリニック支援の会ホームページにアクセス ⇒

活動・レポート・PR方法 ⇒ 「現地からのレポート」 Borderless Border's

国内から

【東京＝田中増美】

## 一般公開勉強会を開催しました

JAM 第一回目勉強会「ミャンマー／ビルマ  
難民移民無料診療所 メータオ・クリニックの  
今」を 2010 年 2 月 6 日（土）に開催しまし  
た。

テーマは、メータオ・クリニックの概要、設  
立経緯、患者層、国境付近の医療状況やそれ  
を取り巻く NGO などについてです。

日本事務局のクリニックの概要説明やク  
リニックに関連した DVD の視聴、最新の新聞か

らの抄読会などを通じてメータオ・クリニッ  
クとは何かを勉強しました。

JAM のメンバースタッフを含め賛助会員  
の方、一般の方から合わせて 15 名の参加者  
が来られました。JAM のメンバーの病院や保  
健所などで働く医師、看護師、保健師、会  
社員のほかにミャンマー／ビルマに関  
連した NGO からの参加者の方、国際機  
関の関係者の方、大学院生の方など様  
々なバックグラウンドをお持ち

ちの方が参加されました。

勉強会参加者（JAMメンバー）より「JAMメンバー以外の方からもディスカッションの場では活発な質問や意見、提案などをいただくことができとても有意義な時間となりました。」や、その他の勉強会参加者（賛助会員の方、一般の方）より「ミャンマー／ビルマの問題に関心はありましたがメータオ・クリニックに焦点をあて、知れたのはこれがはじめてでよい機会となり、興味深いものでした。」「メータオ・クリニックを取り巻く複雑なNGO関係に

ついては難しいものでしたがクリニックの在り方を勉強する機会になりました。」などの貴重なご意見をいただくことができました。

皆様それぞれご多忙の中、勉強会にご参加いただきどうもありがとうございました。

今後もJAMで勉強会の企画をご案内させていただきます。予定です。

勉強会当日の資料につきましては、JAMホームページ上に掲載してありますのでよろしければ、ごらんください。

## JAM の裏話

こんにちは。日本事務局のスタッフの田中と申します。

皆様、このコーナーは毎月書いているスタッフが異なることにお気づきでしょうか。毎月、日本事務局のスタッフの誰かが担当して各自でテーマを決めて書いています。

今月は、ついに私の当番が回ってきました。何を書こうかとでも考えました。

ホームページやリーフレットにも、毎月の会報にもJAMの活動内容について書かせていただいているのですが、JAMの裏話、いや、改めてJAMの自己紹介をすることにしました。

JAMの正式名称は、「メータオ・クリニック支援の会」といいます。私たちは、英語の名称から、頭文字をとって「ジャム」と呼んでいます。

意外とシンプルな名称ですが、この名称に決まるまで結構、苦労したのです。メータオ・クリニック、ビルマ、ミャンマー、笑顔、こどもたち、支援、などなどキーワードがどんどんあがりました。日本語だけでなく、英語にしてみたり、タイ語にしてみたり。

そうこうするうちに1つの名称がかなり有力候補としてあがってきました。

しかし、決まりそうだったのですが・・・略称を辞書でひいてみました。

### 「あらびきとうもろこし」。

うーん。どうかねえ。というわけで却下。

スタッフ全員で「これは、どう?」「こっちは?」「えー。びみょー・・・」などなど白熱した議論が繰り広げられた末、ほぼ全員一致で「メータオ・クリニック支援の会（JAM）」に決定したのでした。

でも、ジャムも、果物のジャムっぽいですけど・・・。

さて、JAMには**日本事務局（東京）**と**現地事務局（メソト）**の2ヶ所の事務局があります。JAMの活動は、無償ボランティアで行っています。現地事務局のスタッフは、現在1人ぼっちですが、日本事務局には、20人ほどスタッフがいます。

月に1回は、集まって支援方針を検討、決定しています。さすがに現地から毎月帰ってくるわけにはいかないので定例会のときの現地とのやりとりには、スカイプを使います。日本事務局スタッフも、おのおのが生業との両立をしているため、毎日のように集まることは困難ですが、随時、メールや電話でやりとりをし、必要に応じて臨時の集まりの時間を設けま

す。

さらに日本事務局の中には、**代表**をはじめ、**事務局、企画営業、会計、広報**とに分かれて運営をしています。そして**学校保健分野、感染予防分野、医療技術分野**の各分野に**テクニカルアドバイザー**がいて現地スタッフがスムーズに従事できるように日本から支援をしています。

テクニカルアドバイザーって、かっこいい！とひそかに思っています。ちなみに私は、広報担当です。毎月、スタッフたちからの原稿を編集して会報を作っております。読んでくださった皆様の反応は、毎月気になります。

私は、ずっと、なんとなく「日本以外の国で住んでみたいなー。そこで暮らしている人たちってどんな人たちなのかな??仲良くしてみたいー。」と思っていました。だからといって、特別に何かをしていたわけでもありませんでした。なので JAM にかかわるようになって国際保健が身近に感じられるようになってとても新鮮です。

初めの頃は、定例会に参加しても、みんなの会話の内容の意味がよくわからなかったりもしたのですが、最近は少しずつ、わかるようになってきてうれしいです。

JAM のスタッフは、海外で活躍している、していた人たちが多くて「すごいなあ」と思っています。スタッフの 1 人は、今、青年海外協力隊でインドで助産師として活動している人もいますよ。彼ら、彼女らの話を聞くのは、私は、いつもとても楽しいです。とてもうらやましくて懂れます。皆も「だったら、行っちゃえばいいじゃん」と言ってくれるのですが、いざとなると、とてもびびり屋さんの私には、日本以外の国で生活をするなんて、なかなか踏み出す勇気がありません・・・。

でも、日本にいても、できる支援っていっぱいあるんだってことを多くの人に伝えるのも大切だなーって最近思っています。

実を言うと私は、タイには行ったことはありますが、メータオ・クリニックには行ったことがありません。事務局スタッフの中で現地に行ったことがない人は、少数派です。

日本で写真や話を聞くのもいいけれど、実際に現地の様子や雰囲気を見て感じると、きっと新たないろんな自分にも気がつけるのかなーと思っています。というわけで「私も JAM のスタディツアーに参加するぞ！」っていうのが今年の私の目標です。

今年は、公開勉強会も何度か開催する予定ですし、スタディツアーも開催する予定です。

つ・ま・り、

**この会報を読んでもらえる皆様と直接お会いできる機会が増える♪**

とっても、楽しみです。

読者の皆さんが

JAM のことを知る前にメータオ・クリニックのことは聞いたことがあったのかなあ？

国際保健や海外でのボランティアなどに関わっていたりしたのかなあ？

どうして JAM のことを応援しようって思ってくれたのかなあ？

などなど、皆さんに機会があれば、ぜひ聞いてみたいことがいっぱいです。

もちろん、会報の感想も。

国際保健医療協力のなかで (5)

## 開発か協力か



【東京＝小林潤】

「国際開発」「国際協力」どちらが好きですか？と日本での大学での授業やその他の講演会等でできくと 9 割以上が「国際協力」と答えます。海外で欧米人に「あなたは何の仕事ですか？なんの専門ですか？」と聞かれ「国際協力：International cooperation」ですと答えた場合、意外にも相手の反応は「???」のようです。仕事や専門が国際協力というのは、理解されないようです。

欧米では一般に「国際開発：International development」という言葉を使っています。アメリカの国の技術援助は USAID という機関がおこなっているのは知っている人も多いでしょう。この D は Development からきており開発を意味します。イギリスは DIFID、オランダは DANIDA、すべて D で国際開発をする機関という名称になっています。私を含めて、多くの日本人はこの国際開発という言葉は理解できても、好きになれないのではないのでしょうか。これについて討議すると、欧米の築いた現代文明を一番とするやりかた、キリスト教の布教の考え方、植民地支配を継続した考え方等、いろいろな批判もでてきます。私の場合どうなのか考えてみると、これらの批判の前に自分自身が途上国を開発しているという気持ちはないので、受け入れがたい言葉となっているようです。協力のほうが一緒にやっているというイメージで心地よいのです。

皆さんご存知のように、日本の援助機関は国際協力機構：JICA；Japan International Cooperation Agency といい国際協力をする機関としています。日本は一時世界のトップドナーになりながら、欧米から日本はなにをやっているかわからないといわれているという話はよく聞きました。これらの反省から日本の援助も成果主義を取り入れて、数値化して成果を評価することを最近強く求められます。また私たち技術屋も根拠のある公衆衛生・医療を取り入れて、英語の科学論文を

作成して世界に向けて発信する努力をしています。しかしながら、実は日本の一番評価されていたところを最近捨ててしまったのではないかとも思えるのです。「成果はでたけれど、欧米のコンサルタントは 1 ヶ月たらずでこちらの話もろくにきいてくれず計画をたてていった」「日本のプロジェクトは成果はよくわからなかったが、こちらのお話をよく聞いてくれた」といったような話を数カ国でききました。これらの話を成果主義から考えると、日本の援助はひどいことになります。しかし日本は協力をしているわけなので、開発のゴールといった成果よりも、一緒にやっていくといった協力のアプローチを非常に大切にすることの現れであると思います。このようなプロセスを評価するやりかたをとり入れるということを 10 年前は盛んに聞きましたが、最近は薄れてきてしまったような気がします。

2 年ほど前に、ロンドン王立熱帯医学会の 100 周年記念大会で日本の熱帯医学会・国際保健医療学会・寄生虫学会から代表を送り込んで、日本の熱帯医学・国際保健のシンポジウムを開催して発表する機会がありました。シンポジウムが終わってから、「私はイギリスの社会学者だが、あなたたちのやっていることは侍スピリットかなにかと関係しているのか」という質問を受けました。そのとき私はなんという失礼な質問をするのかと思い「日本の公衆衛生の進展、アメリカの影響、ドナーとして途上国への国際保健の経験の積み重ね等」を懸命に説明してしまいましたが、なにか議論がかみあっていませんでした。後から考えるとこれは的外れな回答をしてしまったようです。私達が欧米のモダンな公衆衛生や開発理論を勉強してそれに近づこうとして、日本の学問・事業の成果を発表したとしても、その後ろにある私たちのメンタリティーの違いを彼は察したのだと思います。このような日本なりの援助・協力を、英文で見えるように世界発信していくこと、大





